

Efficacy of Antibodies and Antiviral Drugs against Omicron BA.2.12.1, BA.4, and BA.5 Subvariants

Takeshita E, Yamayoshi S, et al. N Engl J Med. 2022 Aug 4;387(5):468-470.

doi: 10.1056/NEJMc2207519. Epub 2022 Jul 20. PMID: 35857646

全文 URL: <https://www.nejm.org/doi/full/10.1056/NEJMc2207519>

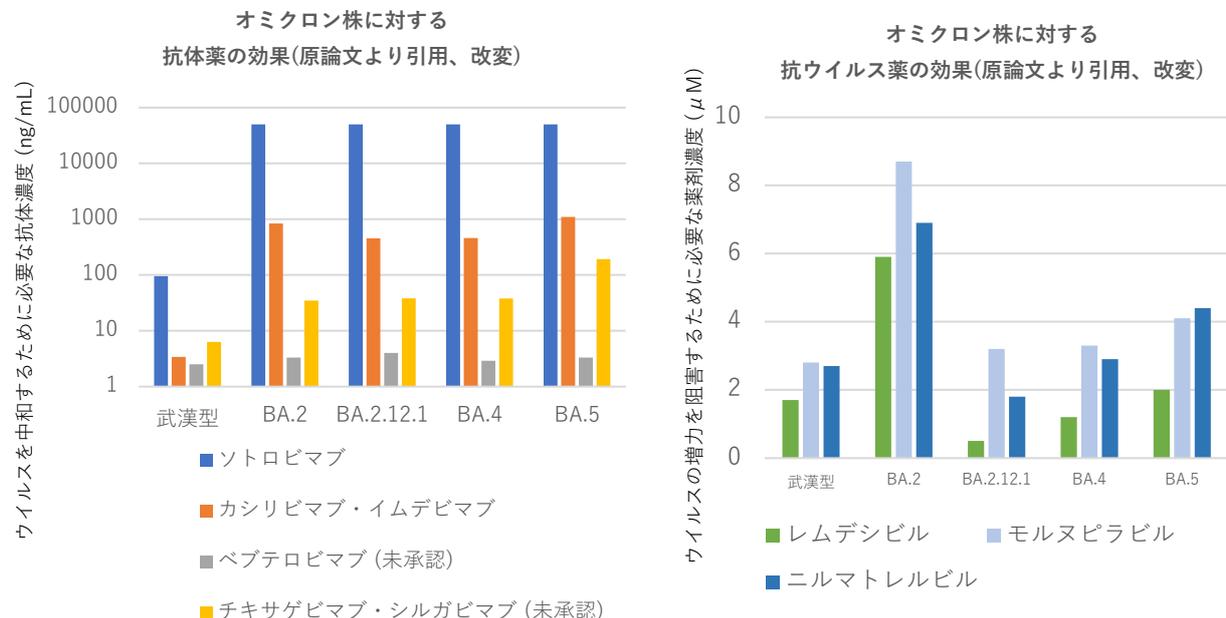
オミクロン株 BA.2.12.1、BA.4、BA.5 の各系統に対する 各種治療薬の効果について

背景と目的：

オミクロン株は5つの系統（BA.1、BA.2、BA.3、BA.4、BA.5）に分類されている。BA.2系統が流行の中心となっていたが、2022年7月以降、日本を含む多くの国で、BA.2系統からBA.5系統への置き換わりが急速に進んでいる。今回、臨床検体から分離した各系統のオミクロン株に対する、抗体薬および抗ウイルス薬の種類による、阻害効果を検討した。

主要な結果（下図参照）：

ソトロビマブおよびカシリビマブ・イムデビマブの中和活性は、従来株（武漢由来）に対する効果と比較すると、BA.2以降のどの系統に対しても著しく低いことが判明した。チキサゲビマブ・シルガビマブ（国内未承認）の効果も同じく低下していた。一方、ベブテロビマブ（国内未承認）は、BA.2.12.1、BA.4、BA.5の各系統いずれに対しても高い中和活性を示した。続いて、3種類の抗ウイルス薬（レムデシビル、モルヌピラビル、ニルマトレルビル）の効果を解析した。全ての薬剤がBA.2.12.1、BA.4、BA.5の各系統の増殖を効果的に抑制することが分かった。



要約作成者のコメント：

かつてない規模の第7波を迎え、維持透析施設でもCOVID-19陽性者が多く発生している。また医療スタッフの感染も大きな問題となっている。本報告では、抗ウイルス薬レムデシビルが安定して高い治療効果を発揮することが、実験レベルでも確認されたほか、内服薬であるモルヌピラビルも、BA.5に対して治療効果が期待できることが示された。本研究では、徐々に日本でも広がりつつあるBA.2.75については検討されていない。しかしながら、COVID-19陽性透析患者の治療選択において、非常に有益と考え、共有させて頂く。

要約作成者：国立国際医療研究センター病院 腎臓内科 片桐大輔